

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

準1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1〜20は音読み、21〜30は訓読みである。

- 1 服地に光沢のある繭紬を使う。
2 這般の消息は先般御尊父より伺った。
3 堪え難い祁寒の日々が続いた。
4 新国家鑿造の時が逼っていた。
5 頃日思うところあつて坐禅を始む。
6 はた目にも度を越えて末子を鍾愛した。
7 例年よりも禾穂の成熟が遅れている。
8 蔚蔚として心楽しまなかつた。
9 書紀は神武天皇即位の年を辛酉とする。
10 試合中に頸椎を損傷した。
11 敦朴な人柄の何とも憎めない男である。
12 恩師の推挽で大学に職を得た。
13 各地を掠略し其の慾を縦にせり。
14 天下の人民三分の二皆是秃首の者なり。
15 先の鋭く尖った砦柵が城塞を囲む。
16 イチョウは葉の形から鴨脚ともいう。
17 山林の藪沢に分け入り禽獣を田獵する。
18 狭い通りに呉服を商う店が櫛比する。
19 日の暮れに孤松を撫して盤桓す。
20 揖讓して天下治まるとは礼楽の謂なり。
21 狭小な谿に人家が点在する。
22 秋の夕日に山の栂が照り映える。
23 葦戸近くに机を据えて写経した。
24 町並みに廓の名残を留める。
25 丹念に米を淘げて炊飯する。
26 早乙女が裳裾を濡らして玉苗を植える。
27 臨終の父の言葉が屢胸裡に蘇る。
28 巖に彼岸花が朱を点している。
29 独り酒を酌みつつ坐に往時を懐かしむ。
30 三島江の入江の真孤刈る人もなし。

(二) 次の傍線部分は常用漢字である。その表外の読みをひらがなで記せ。(10)

- 1 円満の相好を具えた布袋が描いてある。
2 民衆の大半が叛乱軍に与した。
3 道祖神に幣を手向ける。
4 卒かに女の顔から血の気が引いた。
5 ハートを象ったチョコレートを贈る。
6 一意専心して幼君を相けた。
7 医者の見立ては粗当たっていた。
8 愛娘を友人の息子に妻わす。
9 実情を審らかに確かめた上で報告する。
10 この子には何の科もない。

(三) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを送りがなに注意してひらがなで記せ。(10)

〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょうす

- ア 1 捷報…… 2 捷つ
イ 3 夙成…… 4 夙い
ウ 5 允可…… 6 允す
エ 7 徽言…… 8 徽い
オ 9 烹煎…… 10 烹る

(四) 次の各組の二文の( )には共通する漢字が入る。その読みを後の□から選び、常用漢字(一字)で記せ。(10)

- 1 人民の声を(1)殺する。
陸(1)されて湖沼に生息する。
2 暴(2)な領主が領民を苦しめた。
保険の満期返(2)金を受け取る。
3 (3)灯をかかげて世の闇を照らす。
巧妙に(3)網を潜る。
4 (4)見に富む論文に一驚した。
顔と体に無数の(4)傷がある。
5 洗うが如き(5)貧を意に介さない。
皮膚に顕著な発(5)が見られる。
ぎやく・しき・しょう・せき
そう・ふう・ほう・れい

(五) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)

- 1 カンゼンする所無き精緻な理論である。
2 口をきくのもオツクウな位疲れていた。
3 無闇に人の粗をホジクる習癖がある。
4 嵐に遭って皆共に海のモクズとなった。
5 未公開株の購入をアツセンしていた。
6 ウンカの如き大軍が押し寄せてきた。
7 シャクネツの太陽が大地を焦がす。
8 紛れもない殿のごラクインであった。
9 強い精神的チュウタイが二人を結ぶ。
10 何ともツカみ所のない面妖な話だった。
11 賊軍を討ち滅ぼしてガイカを揚げる。
12 部下の非礼を平身低頭してワびる。
13 温泉旅館でアンマを頼んだ。
14 チョウタクを極めた文辞に目を見張る。
15 遊歩道の下をアンキヨが走っている。
16 時代のスウセイを捉える活眼を有する。
17 機密がロウエイせぬかと恐れていた。
18 酔っ払ってくだをマいている。
19 塩をマいて不浄を清める。
20 遅マきながらご挨拶申し上げます。

準1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(六) 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。

(10) 2x5

- 1 漸く尾根の灌木帯を抜けると雨露風雪に曝された山頂を指鼓の間に見る。
2 古寺の庭の萩や桔梗の清蘇で可憐な孟秋の花が参詣人の目を娛しませる。
3 八方塞がりの経営に陥り、起死回生の決路を開かねば破綻は必至だった。
4 辱恥の間柄であった和尚が墨痕鮮やかに認めた書を常日頃賞翫している。
5 都の夜を具蓮の炎が染めて千年の昔に建立された壮麗な巨刹が焼亡する。

(七) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。

(30)

問1

次の四字熟語の(1~10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。

(20) 2x5

- (1) 美俗 門前 (6)
(2) 名人 阿鼻 (7)
(3) 羨魚 眼高 (8)
(4) 夢幻 錦心 (9)
(5) 瓢飲 虚心 (10)

きょうかん・じゃくら・しゅうこう
しゅてい・じゅんぷう・せきしたんかい・たんし・ほうまつ
りんえん

問2

次の1~5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。

(10) 2x5

- 1 労して功無きを謂う。
2 良吏の留任を願う。
3 実体を有たぬ物。
4 亡国の嘆き。
5 仁政の渥恩に浴する。

鑄山煮海・兎角亀毛・刑鞭蒲朽
菟糸燕麦・涸水画脂・麟鳳龟竜
侯霸臥轍・麦秀黍離

(八) 次の1~5の対義語、6~10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

(20) 2x5

対義語

類義語

- 1 脆弱 6 落飾
2 寛大 7 水際
3 味旦 8 経緯
4 硬直 9 襟度
5 正史 10 優越

がりよう・きようじん・こうこん
しかん・しゅんれつ・ていしよ
ていはつ・てんまつ・はいしりようが

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分を選択して漢字で記せ。

(20) 2x5

- 1 リツスイの地無し。
2 ノレンに腕押し。
3 モツケの幸い。
4 シセイ天に通ず。
5 三軍もスイを奪うべきなり、匹夫も志を奪うべからざるなり。
6 天網カイカイ疎にして失わず。
7 声リヨウジンを動かす。
8 死は或いは泰山より重く、或いはコウモウより軽し。
9 トウリもの言わざれども下自ら蹊を成す。
10 中流のシチュウ。

(十) 文章中の傍線(1~5)のカタカナを漢字に直し、波線(ア~コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(20) 2x5 1x5

A 安成久太夫という武士あり。或る夜山に入りけるに、月の光も薄く、木立も奥暗きソバカゲより、何とも知らぬ者駆け出で、久太夫が連れたる犬を追い掛け、遙かの谷に追いつき、傍らなる巖窟にかけ入りたり。久太夫、若党に命じてかの者を探り求めしむ。人のたけばかりなる猿の如きものなり。若党引き出さんとするに、力強く爪尖りて、若党の手を掻き破りけるを、漸くに引き出したり。カズラを用いて之を縛り、村里へ引き出し、之を見るに、髪長く膝に垂れ、面相全く女に似て、その荒れたること絵にかけける夜叉の如し。遍く里人に尋ねれども、仔細を知る者無し。七十余の老農ありて言うには、昔此の村に産婦あり。俄かに狂気して駆け出でけるが、鷲峰山に入りたり。親族尋ね求むと雖も、終に遇うこと無しと言ひ伝えたり。もしは此の者にてあらんかと也。

(柳田国男「山の人生」より)

B 化学に於いて親和力と称する者あり。亦引力なり。但物質に因りて尤も相親しむ者と否らざる者とのみ。又電気は其の積極と消極と相引き、積々相排し、消々相拒み、アタカも有情なる者の如く爾り、而して有情の動物は当然此の性を有す。乃ち雌雄相愛し、雄々相嚙み、雌々相忌む。人に於いても亦然り。蓋し動物遺伝の性なり。但此の性の自然に任すれば、禽獣と相距たる遠からざる憾みあり。是儒に仁義五常、仏に十善十悪、耶蘇に愛の教えあり、人徳を養う所以なり。蓋し愛は即ち仁にして徳の源なり。又一切動物シヨウヨウは愛すべく、老残は厭うべし。故に禽獣其の雛子を愛する情甚だ切なるも、長ずるに及びて母子相忘れ、老残は或いは咬みて之を殺す。人と雖も未開の蛮夷は、衰老用に堪えざる者を殺すを以て習慣とする者あり。老者も亦之に安んじ、シヨウヨウとして死に就くと云えり。

(津田真道「唯物論」より)